

# 高梁川流域 キッズ

たかはしがわりゆういき

## 高梁川流域の

し てい ぶん か ざい し せき

## 指定文化財(史跡)



場所

くらしきし ふな おちようみず え  
・倉敷市船穂町水江



時代

えど じたい  
・江戸時代



指定年月日

へいせい  
・平成17(2005)年  
12月5日



所有

くらしきし  
・倉敷市

いちのくちすいもん

## 一の口水門

新高総早  
見梁社島  
市市市町

倉敷市

矢井浅里笠  
掛原口庄岡  
町市市町市



し せき

## この史跡について

にしたかはしがわ かんがいようすいろ かくちよう せいび たか せ ぶね うんこう か のう たか せ ぞお  
西高梁川からの灌漑用水路を拡張・整備し、高瀬舟の運行を可能にしたのが高瀬通しです。完  
成した年代のことは、正確な記録がありませんが、寛文4(1664)年頃であろうとされます。

いち くち すいもん に すいもん ふなだまりすいもん すい い たか はしがわりゆう  
一の口水門とその下流約350mの二の水門(通称船溜水門)との間で水位を調整し、高梁川流  
路高瀬舟が高梁川流路に簡単に出入りできるようにしたものです。

いち くち すいもん みず え たくし もとぐみ ながさきばな なが お つまさき なんとん へ ななしまとうたん は ぐるさんふもと  
一の口水門から、水江又串、元組、長崎鼻・長尾・爪崎南端を経て七島東端、さらに羽黒山麓へ  
と連なるもので、これによって短い時間と距離で松山藩の外港・玉島港への舟運が開かれまし  
た。水門の構造は一の口と二の水門の一部で創設時の状態をとどめています。

せい き せい き たか せ ぶね ぶっし ゆ そう  
17世紀の後半から20世紀の初めまでの長期間にわたって続いた高瀬舟による物資輸送のこ  
とを今に伝える重要な遺跡です。